

2019年度

川崎市視覚障害者情報文化センター
事業報告書

社会福祉法人 日本点字図書館

1. 総括

社会福祉法人日本点字図書館は、川崎市視覚障害者情報文化センター条例等に基づき、2019年4月1日から2020年3月31日まで、指定管理者として川崎市視覚障害者情報文化センター（以下センター）の管理運営を行いました。

当センターの事業方針は、「視覚障害者市民にいつも頼られるセンター」を目指しています。図書の貸出、自立支援訓練、用具の斡旋に加え、音声ガイド付き映画の体験上映、ヨガ、音楽コンサートなどのイベントも積極的に開催し、日常生活のQOLを高めると共に、文化に触れる機会を提供し、視覚障害者が一市民として心豊かな毎日を過ごせるよう支援を行っています。6年目の2019年度も、上記方針に沿って事業を進めてまいりました。

点字図書館事業では、図書の貸出点数が点字図書、録音図書とも前年比10～13%ほど伸びています。また、図書の製作は、点字図書、録音図書、シネマ・デイジーをおおむね目標通り製作することができました。ボランティアの養成では、今年度は点訳者養成講座を16回開講し、9名の点訳者を養成することができました。訓練については、「相談」という課題解決のための短期的なサポート（2回～5回程度）へのニーズが高く、前年度より約17%増えています。それぞれに必要な応じた短期間訓練を柔軟に行いました。

視覚障害者の生活を便利にする用具（グッズ）も、これまでと同様の斡旋を行いました。購入後の操作説明、機械の調子が悪いといったアフターフォローも行っているため、安心して購入していただいています。

“情報文化センター”として、文化の発信も行いました。「音声解説付きDVD映画体験上映会」（映画本編の音源に場面を説明する音声ガイドを付けた耳で楽しむ映画体験会）、国立国会図書館が配信している歴史的音源を聴く「れきおんクラブ」、「ヨガ教室」を定期的で開催し、「春と冬の音楽コンサート」、「川崎アイ eye センターまつり」に加えて、「手回しオルゴール体験会」、「ふれる博物展」などの企画イベントも開催しました。

関連施設の中では特に病院との連携を模索している中、総合新川橋病院で医師、患者様へ向けて当センターの事業紹介を行う機会を得ることができ、病院との関係を深めることができました。

一般市民への啓蒙については、小学校や公民館などに出向き、視覚障害についての講演、白杖歩行体験会、点字体験などを行いました。また、隣接することも文化センターの協力を得て、視覚障害啓蒙のためのイベント「夏休みこどもクエスト！」を開催し、こどもたちにゲーム感覚で楽しみながら白杖体験、点字体験、便利グッズ体験をしてもらいました。

防災・減災については、10月に関東を直撃した台風19号の被災状況を市内の視覚障害者に調査しました。

2 事業の成果

① 点字図書館事業（図書の貸出/製作/ボランティアの養成）

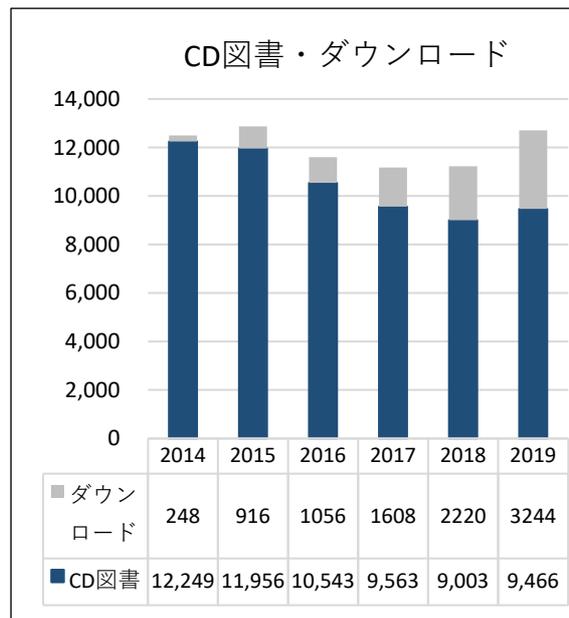
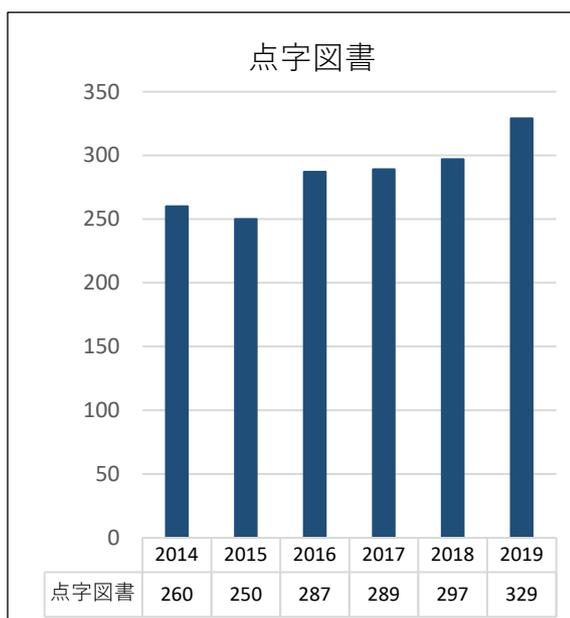
利用登録者、点字図書、テープ図書、CD図書の貸出状況をグラフに示します。

(ア) 図書の貸出

2019年度4月に指定管理になってから6年目に入ったため、その間ご逝去、市外への転出、住所不明となってしまった方などを含め、利用のまったく無かった利用登録者を見直す更新作業を行いました。その結果、登録を削除した方が40名、新規の利用者が31名、最終的に470名となりました。

貸出数は点字図書が329タイトル（昨年度297タイトル）、点字雑誌が295冊（昨年度243冊）でした。録音図書はCD図書が9,466タイトル（昨年度9,003タイトル）と2018年度に比べ

若干増加しています。CD雑誌の貸出は4,350枚（昨年度4,435枚）となっています。さらにメモリーカード（SDカード・CFカード）を使って提供する方式(注1)は、録音図書が3,244タイトル（昨年度2,220タイトル）と前年度比の1.5倍に伸びています。一度に10タイトルを一回のカードのやりとりで聴くことができる便利さ



に加え、夏期の休館や年末の休館の時期に合わせて「ダウンロードサービスおすすめセット（3種のジャンル/各15タイトル）」を企画したことも利用が増加した要因と思われます。また、当センターの製作図書を利用者自らがインターネット上の電子図書館「サピエ図書館」にアクセスして、直接ダウンロードする件数も伸びています。点字図書は1,394タイトル（昨年度1,363タイトル）、延べ利用者4,981人（昨年度5,336人）。録音図書が1,124タイトル（昨年度1,017タイトル）延べ利用者71,886人（昨年度51,864人）となっています。これは、サピエ図書館にパソコンを使用しないで直接アクセスできる新型の機器（プレクストークPTR3）が2018年6月に発売されたり、iPhone・iPad用のアプリ（ボイス オブ デイジー）が12月に販売されたことなど、利用できる機器が増えてきたことが要因に挙げられます。今後も図書データを直接利用するユーザーが増えてくることが予想されます。

注1）当センターでは貸出方法のひとつとして、ダウンロードサービスを行っています。これは、パソコンの使用が困難な利用者のために、利用者に代わってサピエ図書館から希望の図書をメモリーカード（SDカード・CFカード）にダウンロードするサービスです。利用者個人のメモリーカードを使用するので貸出期間の制限もなく、人気の図書の予約待ちもありません。これによって、サピエ図書館でダウンロード可能なすべての資料をご利用いただけます。

（イ）点字図書・録音図書・音声ガイドの製作

点字図書は目標を超える47タイトルを製作いたしました。また、個人の希望図書を製作するプライベートサービスは、32タイトル製作しました。

録音図書は89タイトルを製作し、目標100タイトルを達成することはできませんでした。しかし、収録時間が10時間を超えるものが11タイトル、また辞典類など製作に大変苦慮する本など音訳だけでなく校正、デイジー編集にも時間の掛かる図書を製作し提供することができました。またプライベート製作は12タイトル製作し、テキストデイジーという新たな方式の図書が4タイトル（昨年度4タイトル）、PDF化（ロービジョン者がタブレット端末で利用したいという希望のため）を3タイトル（昨年度3タイトル）製作しました。

DVD映画の音声ガイド製作は、センターで養成したボランティアにより10タイトル（昨年度9タイトル）製作することができました。委託製作の24タイトルとあわせて34タイトルを製作しました。

② 相談・訓練事業の取り組み

(ア) 相談・訓練実績

歩行訓練は、訓練全体の5割を占めています。自宅近隣のコンビニや病院に行きたい、散歩がしたい、公共交通機関を使って当センターや就労移行支援事業所、文化・スポーツ施設まで行けるようになりたいという希望があり、歩行訓練をおこないました。白杖を使って一人で歩く訓練をおこないますが、迷ったときには周囲の人に聞く、駅員の介助を受けて電車を利用するなど、周囲のサポートを適宜受けながら安全に目的地に移動する方法を身に付けることも訓練のひとつです。

パソコン訓練は、音声読上げ機能を使ってキーボードのキータッチを習得してもらうことから始め、ワード、エクセルの操作、視覚障害者専用ソフトを使ってメールやインターネットを楽しむことができるように指導しています。また、スマートフォンやタブレット端末、点字電子機器の操作訓練の希望が増えてきたために、今年度からは集計項目にICTという分類を新設しました。高齢者でもiPhoneにチャレンジする方が増えています。ボイスオーバー（音声読み上げ）機能をつかって、電話をかける・受ける、メールを送受信するなど、ご本人の希望と進捗度を見極めながら一人ひとりに応じた丁寧な指導をおこなっています。

ここ数年の傾向としては、訓練よりも相談（短期的なサポート）の割合が増えています。短期サポートの内容は、進学、就職、人事異動、引越しなどによる通勤通学経路の歩行訓練、就労継続や求職活動における他機関の紹介、さらなる視力低下による生活相談、スマートフォン、タブレット端末等の最新機器の情報提供やある個別のニーズに限定した操作方法、録音図書再生機の操作方法などがあります。また、センターで購入された時計や拡大読書器など用具・機器類の操作指導や故障対応などアフターフォローにも対応しています。

利用者の高齢化によって長期的な計画に基づいた訓練を希望される方より、生活の困りごとを改善できる方法を一緒に考えたり、高齢福祉サービスを利用するための情報提供や連携を希望される方が増えています。たとえば市内の地域包括支援センターや相談支援センターからも定期的にご紹介をいただいています。今後も川崎市内の障害・高齢福祉関係機関と連携し、センターが早い段階で関わることをできるよう、関係を強化していきたいと思えます。

<訓練>

	訓練	
	名	回
歩行	18	214
パソコン	7	76
ICT	3	37
点字	2	29
日常生活	5	12
その他	7	35
合計	42	403

<相談>

	相談	
	名	回
歩行	50	112
パソコン	26	81
ICT	14	33
点字	3	3
日常生活	52	100
その他	14	18
合計	159	347

(イ) 訓練生同士の懇親会（ぶらぶら会）の開催

「ぶらぶら会」とは盲人図書館時代から行われている当事者間の懇親会です。2019年度は、一般企業における事務職就労に関する情報交換の場として、9月7日に実施しました。独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センターの伊藤丈人研究員にファシリテーターをお願いし、10代から30代までの男女7名が参加し、事務職就労についてざっくばらんに意見を交換しました。この場を設定した背景には、過去1年間に就労移行支援事業所に通所するための歩行訓練、就労相談を受けた方が複数名いたことがあげられます。比較的若い方も多かったため、就労に関するさまざまな情報・人的ネットワークが乏しいのではないかと考え、呼びかけをおこないました。

自身も視覚障害者であるファシリテーターの伊藤さんからは、「採用の面接試験で、視覚障害者は採用予定がないと言われたらどうしますか」「就職しても仕事を与えられず座っているだけになってしまったらどうしますか」「会社のシステムが変わって、パソコンの音声ソフトが使えなくなったらどうしますか」と、視覚障害者が実際に直面することが多い困難な代表事例を3つ出していただき、「自分ならこう考えてこのように行動してみます」とそれぞれの考えを出し合いました。ファシリテーターからは実際に解決に至った事例を紹介いただき、「このような視点をもつとよいですね」と会を導いていただきました。また、終了後はお互いの連絡先を交換し、若者ならではの趣味やメイクのことについて自由なおしゃべりを楽しみました。

(ウ) 訓練生屋外交流会の開催

センターでは、歩行、パソコン、点字、調理等すべての訓練は訓練生と指導員マンツーマンでおこなっています。また自宅での訪問訓練も多いことから、訓練生同士つながらりを持つ機会はあまりありません。そこで訓練生同士の交流や親睦を深めることを目的に、年に1度川崎市の福祉バスをチャーターして屋外交流会を実施しています。センターの前身である川崎市盲人図書館時代から続いている恒例のお楽しみ行事のひとつです。

10月24日(木)、訓練生12名と付き添い、センター職員合わせて総勢28名で「神奈川県立生命の星・地球博物館」と「鈴廣かまぼこの里」に行ってきました。生命の星・地球博物館は地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマにした博物館であり、触って楽しめる展示が数多くあります。巨大な隕石や恐竜の骨を積極的に触るなど、とても関心が高い様子で鑑賞されていました。

また、鈴廣かまぼこの里では、小田原名産のかまぼこや干物など、ご家族やご友人へのおみやげ選びを楽しんでいただきました。

昼食の場面などで生まれた和気あいあいとした雰囲気がとても印象的であり、良い交流の場を提供できたと思います。

③ 視覚障害者用具の展示と斡旋

視覚障害者の日常生活を便利にするグッズを2019年度は、1,256点(2018年度1,169点)の斡旋を行いました。今年度はアイ eye センターまつりで好評だった「操作を音声で知らせる電子レンジ」を新たに展示品に加えました。これらのグッズによって不便さを自ら解決できるようになり、視覚障害者の気持ちが前向きになって訓練や



図書の利用に進むきっかけになるケースが多くあります。センターでは、白杖を購入される方に歩行訓練をしたり、音声時計や録音図書再生機、点字電子機器等を購入される方に操作方法を説明したりするので、用具の紹介や斡旋を通して、当事者のQOL向上につながっていきます。視覚障害リハビリテーションの専門家である当センターの歩行訓練士がスタッフとして対応出来ることも大きな強みになっています。

④ ボランティアの養成と連携

市内の点訳ボランティア団体から受講者を募り、点訳者養成講座を9名の方に全16回開講しました。受講者は最終審査に全員合格し、今後点訳者として蔵書の製作をしていただきます。また、点訳ボランティアのレベル向上のため、スキルアップ研修会を2回開催し、66名の方に受講していただきました。

音訳者については、今年度は養成講座を開講しない年ですので、スキルアップ研修会を開催しました。今回は他の方の読みを相互でチェックする「読みの校正体験」を行いました。1つの本を章ごとに分割しそれらを5名程度で朗読し、お互いに他人のものを聞き合います。そのあと気づいた点・疑問点を確認し合います。このような相互に校正を行うステップを経て3タイトルを製作しました。

映画の音声解説を製作する音声ガイドボランティアは、ガイド原稿を自ら製作します。よりの確にガイドを表現できるように、スキルアップ指導を38回実施し、延べ113名の方に指導しました。

センターを活動拠点としているボランティア団体、水車の会、デイジー川崎、川崎パソコンユーザー会の活動日（毎週火曜日）に、当センターの多目的室、および録音室を貸出、活動していただきました。また、年に一度の施設公開イベント「川崎アイ eye センターまつり」を、川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（愛称：オブリガード）の全面的な協力を得て、共同で開催いたしました。

⑤ 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓蒙・普及

(ア) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携

外部関連機関との連携では依頼のあったイベントに参加し、用具展の開催、講演、事業紹介などを行いました。市内の就労援助センター3か所を訪問し、相互に事業紹介を行いました。また、総合新川橋病院の医師、患者様に当センターの事業を紹介する機会を得ることができ、病院との関係を深めることができました。啓蒙・普及については、センターの見学者に施設内の見学と視覚障害についての説明を行い、子供たちに視覚障害体験を行いました。

4月14日 神奈川県網膜色素変性症協会「アイフェスタ 2019in 横浜」…用具展

5月15日 川崎市幸区介護支援専門員連絡会（30名）…事業紹介、訓練事業紹介

5月24日 川崎市視覚障害者福祉協会麻生支部 用具展示会（30名）

5月31日 川崎市介護支援専門員連絡会（約300名）…事業紹介、訓練事業紹介

6月8日 神奈川県ライトセンター「音楽祭」…用具展

- 6月18日 神奈川県立平塚盲学校 弱視レンズ等体験展示会（約30名）…用具展
- 7月10日 神奈川ロービジョンネットワーク見学対応（2名）…施設見学・事業紹介
- 7月24日 横浜市立盲特別支援学校職員研修講座「視覚情報を言語化する」（15名）
…研修講師
- 7月24日 韓国国立リハビリテーションセンター視察対応（3名）…事業紹介・視覚
障害者の法制度や社会資源の説明
- 8月6日 国立障害者リハビリテーションセンター学院の学生見学対応（2名）
…事業紹介・用具の紹介
- 8月9日 東京リハビリテーションセンター世田谷の歩行訓練士見学対応（1名）
…施設見学・事業紹介・情報交換
- 8月24日 けいゆう病院眼科の視能訓練士見学対応（2名）…施設見学・事業紹介
- 8月25日 川崎市視覚障害者福祉協会 用具展示・販売会（約30名）…用具展
- 9月21日 地域包括支援センター「ビオラ川崎」の職員見学対応（1名）…施設見
学・事業紹介・ヨガ教室見学
- 9月28日 総合新川橋病院 診る見るサポート第1回新川橋視機能支援セミナー
（約40名）…事業紹介・訓練事業紹介・用具展
- 11月13日 川崎南部就労援助センター訪問（3名）…事業紹介・情報交換
- 11月26日 川崎北部就労援助センター訪問（3名）…事業紹介・情報交換
- 12月7日 神奈川ロービジョンネットワーク研修会「デイジー図書と視覚障害者の読
書環境の変化について」（約40名）…講演

2020年

- 1月18日 横浜市視覚障害者福祉協会 日常生活用具展示体験会（約20名）…用具展
- 2月12日 川崎中部就労援助センター訪問（3名）…事業紹介・情報交換
- 2月13日 かわさき基幹相談支援センター訪問（2名）…事業紹介・情報交換

（イ）啓蒙・普及

市内の小学校などにおいて、道や駅で困っている視覚障害者に声をかけ、簡単な手引きができるように白杖歩行体験、誘導の仕方を指導しました。民生委員や学生の方には当時者の話を交えて視覚障害とはどのような障害かを理解してもらった後、センターはどのようなサービスをしているかを説明しました。隣接するこども文化センターと連携し、ゲーム感覚で視覚障害を理解する「夏休みこどもクエスト！」を開催しました。小学校低学年の子供たちに、楽しみながら視覚障害の不便さと解決方法を理解してもらいました。

- 6月11日 中央第二地区民生委員研修会（40名）
内容：視覚障害とはどんな障害か・見え方体験、歩行体験・事業紹介
- 6月13日 川崎市立川崎小学校（約120名）
内容：便利グッズや図書の紹介、盲導犬歩行のデモンストレーション、視覚障害者への声掛け・接し方など
- 6月16日 多摩ふれあいまつり
内容：川崎市視覚障害者福祉協会へ、展示用の便利グッズを貸出
- 7月26日 川崎市教育文化会館「平和人権講座」（17名）
内容：小学生を対象に「目の不自由な人の暮らし」、「目の不自由な人に役立つ道具」、「点字」について、用具や本に触れてもらいながら紹介。
- 7月27日 多摩区社会福祉協議会「チャレンジボランティア」（10名）
内容：視覚障害に関する講義、ガイドヘルプ体験、白杖体験
- 8月2日 夏休みこどもクエスト！（25名）
内容：隣接するこども文化センターの子供たちにゲーム感覚を取り入れて、歩行体験・点字体験・図書の貸出体験を実施。
- 8月7日 中原区社会福祉協議会「チャレンジボランティア」（6名）
内容：小学生を対象に、視覚障害者との同行体験、買物体験を実施。
- 9月10日 視覚障害者向け総合イベント・サイトワールドのガイドボランティア講習（14名）
内容：来場者数の多いイベント会場で、視覚障害者を安全にガイドするための講習
- 9月11日 社会福祉士を目指す学生見学対応（2名）
内容：施設見学・事業紹介・ロービジョン体験
- 9月13日 川崎市立殿町小学校（約120名）
内容：便利グッズとサポート体験
- 9月28日 朗読・録音奉仕会かもめ（横浜市青葉区）見学対応（8名）
内容：音声ガイド付きDVD映画体験上映会見学対応と情報提供
- 10月30日 小花インターナショナルスクール見学対応（18名）
内容：外国人の小学生へ、誘導・白杖・便利グッズ体験
- 11月16日 川崎区社会福祉協議会福祉まつり（約100名）
内容：川崎区自立支援協議会メンバーとして地域の活動を伝える展示会に協力
- 11月22日 株式会社メジャメント見学対応（1名）

内容：障害者の在宅就労のクラウドソーシングサービスの会社の方へ施設見学・事業紹介を行ない、視覚障害者の就労について最新の情報交換を行った。

2020年

2月7日 NTT-AT 来所対応（1名）

内容：超音波振動による歩行補助具の今後の可能性についての情報交換

⑥ 広報活動・イベントの開催

(ア) 広報活動

a. 訓練事業説明会

目が見えにくくなって様々な不便を感じている方々が早期にセンターに繋がってもらえるように、毎年1回、主に行政の障害者担当や高齢者・障害者施設の方々に対して、当センターの訓練事業説明会を行っています。2019年度は7月3日(水)に開催しました。

川崎市内と、神奈川県内の関係施設130箇所に案内文を送付し、川崎市役所の障害支援担当者、地域包括支援センターの相談員、ハローワークの指導官、眼科の看護師や眼科検査科スタッフ、県内の点字図書館や盲導犬協会職員など17名の方に参加していただきました。当日は2018年度のセンターの事業の概要、図書の利用状況、当センターで行っている訓練の内容とその必要性、視覚障害者用の用具類（補装具、日常生活用具）について説明しました。特に用具類については、役所の窓口業務を行う方がどのような商品かをイメージしてもらえるように、日常生活用具のそれぞれの分類毎に（自立支援用具、情報・意思疎通支援用具）、機能をわかりやすく説明し、体験してもらいました。

b. 川崎アイ eye センターまつり

今年度は開催時期を2月から天候が比較的安定している12月に変更しました。当日は天候に恵まれ、多くの方にご来場いただきました。センターまつりには4つのテーマがあります。視覚障害理解のための体験、市内のボランティアの活動紹介、当事者に有益な最新情報の提供、催し物の開催です。今年度も川崎市視覚障害者福祉協会の協力を得て、川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（愛称：オブリガード）と共同で開催しました。

<視覚障害理解のための体験>

点字体験、音声パソコン体験、音声ガイド付き映画の体験、盲導犬体験コーナーを設けました。

<ボランティア活動紹介>

朗読ボランティアによる朗読会、ボランティア団体紹介用ブースを設けました。

<最新情報の提供>

視覚障害者に便利な家電製品体験（協力：三菱電機）、セブン銀行の音声ガイド付きのATMの実機体験。話題の最新機器をはじめとした様々な機器（拡大読書器、音声時計、クッキングスケール、暗所視支援眼鏡など）の体験をしてもらいました。また、サピエ図書館体験、iPad体験なども行い、訓練・相談の利用につながるコーナーも設けました。

<催し物の開催>

2019年度は、視覚障害者に人気のある落語を初めて企画し、古今亭菊太楼師匠の落語会を開催しました。舞台となる高座は会議机に赤いじゅうたんを切り貼りして手作りで準備し、始まる前には出囃子を流すなど、落語会の雰囲気を出しました。視覚障害者の中には生の落語を初めて聴く方も多く、会場はほぼ満席。師匠の巧みな話芸に沢山の笑い声に包まれた楽しい落語会でした。



なお、休憩コーナーでは、スターバックス コーヒー ジャパン（株）による無料のコーヒーサービス、オブリガードによるお茶やお菓子の無料サービス、福祉作業所によるパンの販売などを行いました。また、川崎市視覚障害者福祉協会によるワンコインマッサージも大好評。こちらもみなさんのお楽しみの一つのようなものでした。

今年は運営面も見直し、スタッフジャンパーを用意して着用し、来場者にだれがスタッフかをわかりやすくしたほか、インカムも利用して来場者からのお問い合わせに即座に答えられるようにしました。これまで最多の300名の来場者があり、好評のうちに終えることができました。

c. メディアによる広報

利用者・ボランティア・支援者の方々へ、以下のメディアにより広報を行いました。

- 新刊図書情報誌「ぶっくがいど」（偶数月）
3月末発行数 点字88部、音声デージーCD版207枚、墨字299部
- 「川崎アイ eye センターだより」（奇数月）
3月末発行数 点字67部、墨字197部

- メールマガジン「アイ eye」 (2回/月)
3月末登録者数 246人
- ホームページ <http://www.kawasaki-icc.jp/> (毎月・随時更新)

(イ) イベントの開催

川崎市は映像や音楽文化の振興・普及を促進しています。視覚障害者の市民もこれらの文化に触れることができるように、多数のイベントを開催しました。

2019年度は定例イベントとして、音声解説付きDVD映画体験上映会(毎月)、歴史的音源を聴く会(れきおんクラブ:隔月)、ヨガ教室(10回)、読書会(年2回)、春のコンサート、冬のコンサートを開催しました。また、それ以外にも、ふれる博物展、手回しオルゴール体験会、視覚障害者用機器の展示会などの企画展を開催しました。

なお3月からは新型コロナウイルス感染予防のため、すべてのイベントを中止いたしました。

a. 音声解説付きDVD映画体験上映会

「映像のまち・かわさき」らしいイベントとして、音声解説付きDVD映画体験上映会を毎月1回、開催しました。視覚障害者が、映画のサウンドトラックと音声解説によって映画を楽しむ機会であると同時に、映画好きの当事者同士の交流の場にもなっています。平均30数名の方が来場され、作品によっては50名近い来場者があります。収容力を増やすため、プロジェクター、スピーカー、スクリーンを天井設置する工事を行いました。また、土曜開催に加え平日開催(金曜)を試行しました。

b. 歴史的音源を聴く会(れきおんクラブ)

国立国会図書館の音源コレクションをご紹介するイベントとして年5回奇数月に(3月は中止)歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」を開催しました。

今年度も以下の通り、各回バラエティ豊かなテーマを企画しました。

5月:童謡(あの町この町、あわて床屋、兎のダンスなど)、7月:吉田正(有楽町で会いましょう、公園の手品師、寒い朝など)、9月:カントリー&ウエスタン(黄色いリボン、シェリト・リンド、ケンタッキーのわが家など)、11月:コロムビアの栄光(一杯のコーヒーから、ぼくは特急の機関士で、愛の讃歌など)、1月:うぐいす歌手(丸ノ内音頭、三味線ブギウギ、ああそれなのに)など。

c. ヨガ教室

いつまでも健康でありたいと誰もが願うことですが、視覚障害者の多くは気軽に運動できる機会が限られているのが現状です。ヨガはマットを使って自分のペースで行うことができる、比較的取り組みやすい運動で、とても人気のあるプログラムです。

ヨガの講師には、これまで視覚障害者にヨガを普及してきた「一般社団法人チャレンジド・ヨガ」の川崎エリア担当の方をお願いしています。安全第一を心掛け、まずは仰向けで呼吸の確認から座位で体をほぐし、毎回のテーマに沿ったポーズを分かりやすい言葉でゆっくりと、必要に応じて補助員が少しお手伝いをしながら進めていきます。センターでは視覚障害の当事者だけではなく、ご家族やガイドヘルパーさんも一緒に参加できるようにしていること、笑いヨガや二人組のポーズ、全員で輪になって行うポーズなども取り入れていますので、初参加の方も気後れすることなく和気あいあいと大変和やかに楽しい教室になっています。

2019年度は10回の教室で延べ199名の参加がありました。約半数が70歳以上の高齢者ですが、「体が動かせて、とてもいい感じ」、「このままずっと進めてほしい」と、ニーズに合った教室であると感じます。また、「もっと難しいヨガもやってみたい」との要望がありましたので、2020年度はこれまでのクラスに加えてレベルアップクラスも開催し、定期的・継続的に運動する機会の提供に努めます。

d. 読書会

読書会は一つの作品を各自で読み、参加者で感想を話し合うイベントです。年2回行われ、盲人図書館時代から続く歴史ある行事となっています。

- 1回目の読書会を次の内容で開催しました。

- ・日時 2019年6月7日(金) 13:30~16:00
- ・会場 川崎市視覚障害者情報文化センター 多目的室
- ・作品 「朝顔の日」 高橋弘希著
- ・参加者 8名

テーマ作品は芥川賞候補作となったもので、結核という病気をテーマにしたもの。文章表現が絵画のように印象的で参加者の方からも様々な感想が出されました。当日、センターの別会場で開催されたイベントに参加された方が読書会にも参加され、通常読書会よりも多い参加人数となりました。

- 2回目の読書会を次の内容で開催しました。

- ・日時 2020年2月7日(金) 13:30~16:00
- ・会場 エポックなかはら
- ・作品 「長いお別れ」 中島京子著

- ・ 参加者 4名

交通の便の良いエポックなかはらで開催しました。認知症をテーマにした作品で、体験談などを含め活発な意見や感想が出されました。

e. かわさき春と冬のコンサート

当センターでは、文化活動の一環として春と冬の年2回、コンサートを開催しています。春のコンサートはクラリネット3人とアコーディオンという異色のカルテット『SPICY4 (スパイシー・フォー)』をお迎えして5月18日土曜日、2階ホールで開催しました。ディズニーの名曲からはじまり、平成の代表曲（川の流れるように、地上の星、CAN YOU CELEBRATE など）、ドラえもんの歴代のテーマソング、スターウォーズのテーマ曲などがそれぞれメドレーで演奏されたほか、ラ・クンパルシータ、モーツァルトの交響曲40番（愛よ永遠に）、ラデツキー行進曲といったラテン音楽やクラシック音楽、そしてオリジナル曲も加わり、バラエティーに富んだ演奏でした。アンコール曲では「クラリネットをこわしちゃった」を、クラリネットを分解しながら演奏し、最後はマウスピース部分だけで演奏するという文字通りの『曲芸』を披露して、聴衆と一体になって盛り上がったコンサートでした。（来場者84名）

冬のコンサートは初めて民謡にスポットをあて、2月15日（土曜日）に開催いたしました。今回お招きした演奏家は川崎で活動中の方々と構成された「かわさき民謡ユニット」。全盲の津軽三味線奏者、踊正太郎氏をはじめ、尺八、鳴り物、唄の4人のユニットです。踊正太郎氏は1997年から3年連続で津軽三味線の全国大会で優勝した実力者です。今回の演奏会は、花笠音頭、炭坑節といったおなじみの民謡に加えて東北の民謡をアレンジした踊さんのオリジナル曲を2曲、そして尺八独奏も含めて全10曲のプログラムでした。

演奏後の感想では「普段接する機会のない三味線、尺八などの邦楽の音色に触れることができ良かった」、「パワーを感じた」などの声がありました。

（来場者約140名）

f. ふれる博物展「ルイ・ブライユの生家と指で巡る東京名所観光」

日本点字図書館では、視覚障害者に触ることの大切さを伝えたいと考え、ふれる博物館を運営しています。年に数回の企画展を行っています。センターではその中から「ルイ・ブライユの生家と指で巡る東京名所観光」を開催しました。

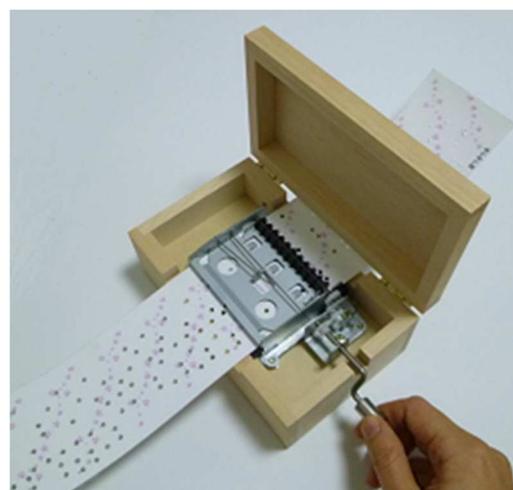
点字の考案者ルイ・ブライユの生家のモデルほか、東京駅、東京スカイツリー、東京タワー、雷門、国会議事堂、東京ドーム、神宮球場、東京都庁、旧国立競技場の精密なモデ

ルの説明を聞きながら形の特徴を理解してもらいます。最終日には、現役のはとバスのバスガイドさんに来てもらい、椅子をバスのように左右2席×縦10列に配置し、ガイドさんのアナウンスをライブで聞きながら「バーチャル東京見物」を楽しんでもらいました。(来場者80名)

g. 手回しオルゴール体験会

- ・日時 2020年2月1日 13時～15時
- ・場所 川崎市視覚障害者情報文化センター
- ・内容 オルガニート愛好会の協力で手回し

オルゴールの体験会を開催しました。まず、オルゴールの構造と仕組みを、各パーツごとに触ってもらい、形や大きさ、それぞれの役割について理解してもらいます。その後、4,5曲ある楽譜カード(幅10センチの帯状の穴の開いた長い紙)から自分の好みの曲を選びオルゴールにセットし、ハンドル



を回して演奏してもらいました。きれいなメロディが流れてきて、みなさんうっとり。次に、各自が楽譜カードの穴あけに挑戦。専用の道具の使い方を聞いた後、テンプレートに沿って穴をあけていきます。そして、自ら作成した楽譜カードをセットし、ハンドルを回すと、聞きなれたメロディが流れてきます。自作のカードから出てくるメロディにみなさん感動の声を上げていました。最後に、準備した伴奏曲の楽譜カードを使って、みんなで唱歌を歌い、あっという間の2時間でした。参加者30名(当事者、ガイド含む)

h. ミニ機器展の開催

ブレイルメモスマート Air16 体験会

- ・日時 2020年2月22日 14:30～16:30
- ・場所 川崎市視覚障害者情報文化センター
- ・内容 KGS社が既存の点字ピンディスプレイの後継機種として販売する機器の体験会。初めて利用する方、今まで使用していた方など、背景は異なっていました。

たが、それぞれのニーズに個別に対応ができ、来所した方はみなさんとても満足されていました。来場者6名（ガイド含む）。

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、次のイベントを中止いたしました。

3月 7日（土曜日） れきおんクラブ「古関裕而 青空を見上げた男」

3月 21日（土曜日） ヨガ教室

3月 25日（水曜日） 見えない見えにくいのかのためのメイクアップセミナー

3月 27日（金曜日） 音声解説付き DVD 映画の体験上映会 平日開催『ローマの休日』

3月 28日（土曜日） 音声解説付き DVD 映画の体験上映会『時をかける少女（原田知世 版）』

⑦ 防災・減災

(ア) 台風19号被災時のセンターの対応について

10月12日、台風19号が関東地方を直撃。川崎市は南北に長く、市の東側は多摩川に面しています。今回の台風により多摩川の支流の氾濫及び、雨水が川に排水できないための内水氾濫が市内数箇所が発生しました。それにより1400戸以上が被害を受け、そのうち半数以上が床上浸水でした。幸い当センターのある川崎区はほとんど被害がありませんでした。センターでは被災した地域に出向き現地を調査した後、休館明けの16日、利用者の被害状況をすぐに調査しました。

利用者約500名の住所を地図上にプロットし、特に被害のあった地域と多摩川沿岸の方、約50人に電話で問い合わせたところ、床下浸水、床上浸水の被害を受けた方が、それぞれ一人いらっしゃいました。床下浸水の方の被害は軽微で、日常生活に支障が無いとのことでしたが、床上浸水の方は一人暮らしで大きな被害を受けていました。夜中、アパートで寝ているところへ急に水が入ってきたため、慌てて外に飛び出し、何とか2階に避難させてもらい、最終的にボートで救出されたとのことでした。「今は身の回りの生活は何とか大丈夫だが、自分の部屋にパソコンなどの機器がそのままになっている。それが使えるかどうかがとても心配だ。」とおっしゃっていました。私どもは日を改めて被災したアパートに出向き、机の上にあったパソコン、その他見えそうな機器を回収してきました。それを利用者の避難先に持ち込み、パソコンを起動させてうまく動作した時には、本当にホッとされていました。この方はパソコンを利用して録音図書を読むことが大好きで、日中のほとんどを読書に費やしている方でした。読書を生きがいのようにしていましたので、まず第一にパソコンを気にされていたようです。

今回の経験から、災害時に一人暮らしの方をまず優先して調査すべき事を実感いたしました。今後、センターの利用者名簿の整備をはじめ、効率的な調査方法の検討など、災害への準備を進めたいと考えています。

(イ) 備蓄食料等の整備

センター内で40人の方が3日間過ごす事ができるように、非常用食料等を整備しました。

- ・えいようかん（5本入り×15箱）
- ・アルファ米（120食分）
- ・簡易トイレ（非常用トイレケアバッグ・一箱20枚入り×15箱）
- ・アルピナウォーター12リットル（常時3本以上保管）

(ウ) 建物内にコーナークッションの設置

当センターでは、映画会、機器展などのイベントを多数開催します。視覚障害者が会場に入る際の入口の角、廊下からトイレに至る曲がり角など、万が一ぶつかった時に角でケガをする可能性があります。特に、災害時などの緊急時に非常口に向かう際などは、特にその危険が高まります。そこで、センター内の出入り口、廊下の曲がり角、トイレの出入り口など、約40か所にコーナークッションを設置しました。

(エ) 新型コロナウイルス感染予防対応

- ・アルコール手指消毒剤を各居室に配備し、来所者には必ず手を消毒してから入室するようにしました。
- ・職員はマスクを着用して来所者に対応するようにしました。
- ・川崎市の方針に従い、2月27日（木）以降の研修会、講座、イベント等、人が集まる催しはすべて中止しました。
- ・始業前、来館者が帰った後は、いす、テーブル、入口、機器類などを次亜塩素酸水で拭き消毒しました。

3. 利用状況

(1) 閲覧・貸出

	2019年度	2018年度
① 利用登録者数	470名	479名
(新規登録者数)	31名	33名

	2019 年度	2018 年度
(点字使用者数)	124 名	129 名
② 利用登録団体	290 施設	278 施設
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	3,157 タイトル	3,075 タイトル
(冊数)	11,470 冊	11,180 冊
蔵書数の変化 (新収書)	121 タイトル	129 タイトル
	354 冊	358 冊
貸出数	329 タイトル	297 タイトル
	1,050 冊	987 冊
(内 他館借受)	69 タイトル	65 タイトル
	150 冊	202 冊
(雑誌)	295 タイトル	243 タイトル
点字図書コンテンツのダウンロード提供		
メモリーメディア	7 タイトル	29 タイトル
④ 録音図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	5,932 タイトル	5,640 タイトル
(枚数)	5,965 枚	5,673 枚
蔵書数の変化 (新収書)	337 タイトル	311 タイトル
	337 枚	312 枚
貸出数		
(ア) カセットテープ	25 タイトル	23 タイトル
	132 巻	107 巻
(イ) CD図書	9,466 タイトル	9,003 タイトル
(内 他館借受)	5,927 タイトル	5,684 タイトル
(ウ) カセットテープ雑誌	8 タイトル	31 タイトル
(エ) CD雑誌	4,350 タイトル	4,435 タイトル
デージー図書コンテンツダウンロード提供		
(ア) メモリーメディア	3,244 タイトル	2,220 タイトル
(イ) CD	0 タイトル	1 タイトル

	2019 年度	2018 年度
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	94 件	85 件
(2) 資料製作		
① 点字図書の製作数		
(ア) 製作数	47 タイトル 177 冊	50 タイトル 184 冊
内訳		
委託製作数	19 タイトル 81 冊	17 タイトル 64 冊
委託外製作数	28 タイトル 96 冊	33 タイトル 120 冊
(イ) 寄贈	21 タイトル 64 冊	14 タイトル 35 冊
(ウ) プライベートサービス	32 タイトル	22 タイトル
② 録音図書の製作数		
(ア) 製作数	89 タイトル	100 タイトル
内訳		
委託製作数	58 タイトル	77 タイトル
委託外製作数	31 タイトル	23 タイトル
(イ) デイジー編集	89 タイトル	100 タイトル
(ウ) 寄贈	19 タイトル	27 タイトル
(エ) プライベートサービス	11 タイトル	12 タイトル
内訳		
朗読	2 タイトル	3 タイトル
テキストデイジー	4 タイトル	4 タイトル
PDF	4 タイトル	3 タイトル
テープのデイジー化	1 タイトル	2 タイトル
③ テキストデイジー図書の製作数	5 タイトル	6 タイトル

	2019 年度		2018 年度	
④ シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数				
製作数	34 タイトル		21 タイトル	
内訳				
センター内製作数	10 タイトル		9 タイトル	
委託製作数	24 タイトル		12 タイトル	
(3) 点訳ボランティア、朗読ボランティアの養成				
① 点訳ボランティアスキルアップ研修会				
開催回数	2 回		5 回	
受講者数	66 名		79 名	
② 朗読ボランティアスキルアップ研修会				
開催回数	3 回		1 回	
受講者数	16 名		1 名	
③ 点訳ボランティア養成講座				
開催回数	16 回		- 回	
延べ受講者数	100 名		- 名	
実受講者数	9 名		- 名	
④ 音声ガイドのスキルアップ指導				
指導回数	38 回		- 回	
延べ受講者数	113 名		- 名	
実受講者数	10 名		- 名	
(4) 訓練・相談事業の取り組み				
① 訓練				
訓練者実数	42 名	403 回	42 名	619 回
(新規訓練者数)	12 名		15 名	
内訳 (複数提供あり)				
歩行訓練	18 名	214 回	22 名	314 回
パソコン訓練	7 名	76 回	9 名	164 回
ICT 訓練	3 名	37 回	- 名	- 回
点字訓練	2 名	29 回	4 名	87 回

	2019 年度		2018 年度	
生活訓練(日常・調理)	5 名	12 回	1 名	25 回
その他	7 名	35 回	6 名	29 回
② 相談	159 名	347 回	150 名	296 回
③ 用具の展示と販売紹介	展示点数	281 点		290 点
	販売紹介点数	1,256 点		1,169 点

(5) 啓発普及

① 事業報告会等の開催

7 月 視覚障害者訓練事業説明会 参加者数 17 名

② 医療機関との連携

9 月 総合新川橋病院 診る見るサポート第 1 回新川橋視機能支援セミナー
参加者数 40 名

③ 社協主催チャレンジボランティアへ講師派遣

7 月 多摩区社会福祉協議会 参加者数 10 名

8 月 中原区社会福祉協議会 参加者数 12 名

④ 授業・講座への講師派遣

6 月 川崎小学校「視覚障害者の日常生活について」参加者数 120 名

平塚盲学校 弱視レンズ等体験展示会 参加者数 10 名

7 月 横浜市立盲特別支援学校職員研修講座

「視覚情報を言語化する」 参加者数 15 名

教育文化会館平和人権講座 参加者数 17 名

日本盲人社会福祉施設協議会情報化対応支援者

研修会「最新機器の紹介」 参加者数 23 名

9 月 殿町小学校「福祉体験、視覚障害者について」参加者数 120 名

10 月 小花インターナショナルスクール

「視覚障害体験」 参加者数 18 名

11 月 日本盲人社会福祉施設協議会情報化対応支援者

研修会「補装具・日常生活用具の申請、

その他の商品について」 参加者数 30 名

12月	神奈川ビジョンネットワーク「デイジー図書と 視覚障害者の読書環境の変化について」	参加者数	40名
⑤	訓練生交流会	開催数 1回	参加者数 8名
⑥	イベントの開催		
5月	かわさき春のコンサート (SPICY4)	来場者数	84名
6月	ふれる博物館「ルイ・ブライユの生家と 指で巡る東京名所観光」	来場者数	80名
	読書会『朝顔の日』	来場者数	8名
8月	夏休みこどもクエスト!	来場者数	25名
10月	訓練生屋外交流会 (生命の星・地球博物館と 鈴廣かまぼこの里)	来場者数	20名
12月	川崎アイ eye センターまつり	来場者数	300名
2月	手回しオルゴール演奏体験会	来場者数	23名
	読書会『長いお別れ』	来場者数	4名
	かわさき冬のコンサート(かわさき民謡ユニット)	来場者数	140名
	ブレイルメモスマート Air16 体験会	来場者数	3名
●	音声ガイド付き映画体験上映会	開催数 13回 延べ来場者数	386名
●	歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」	開催数 5回 延べ来場者数	37名
●	ヨガ教室	開催数 10回 延べ来場者数	199名